

生態

ヒラメは代表的な底魚で、北海道から本州、九州まで分布します。

●分布・回遊

若齢期はあまり移動しないといわれていますが、成長に伴い、餌を求めての回遊や深淺移動がみられます。

●産卵期・産卵場

産卵期: 3～5月。
産卵場: 産卵海域は浅海域。

●成長・成熟

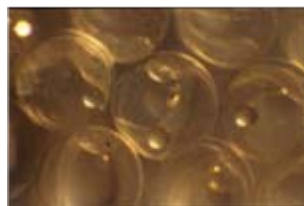
寿命は6歳以上です。概ね2歳で全長40～45cmとなり、メスの約半数が成熟します。

ヒラメ

太平洋中部海域

主な漁業と漁期

成魚 刺網: 周年
定置網: ほぼ周年



ヒラメの受精卵

ふ化から25～30日、全長1.5cmほどになると、右眼が左側に移動してくるとともに、浮遊生活から底生生活に移ります(右)。



放流サイズの稚魚

産まれた卵は直径約1mmの分離浮遊卵(左)で、受精後約2日でふ化します。

ふ化したばかりの仔魚は眼が両側にあります。



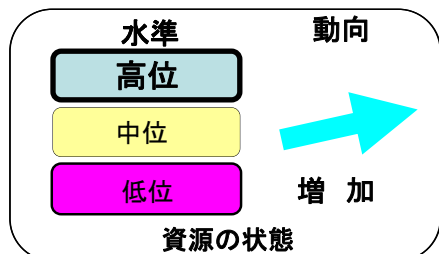
浮遊期の稚魚

種苗放流の取り組みでは、全長6cm以上に育てられた稚魚が海域に放流されます。

漁獲可能サイズ(全長30cm、体重250g)に達するには約1年かかります。

漁業・資源動向

【資源】



2016年の資源評価では、静岡県を含む太平洋中部海域のヒラメの資源水準は高位、増加傾向にあります。

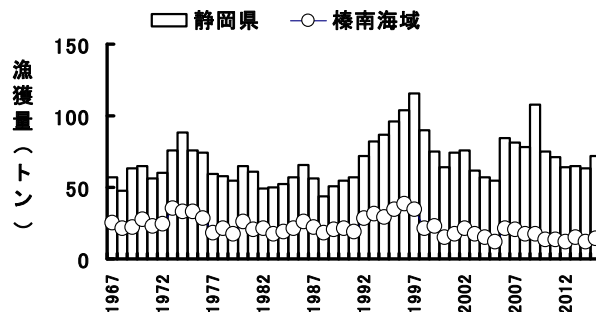
《国の資源動向調査報告へのリンクはこちら》

http://abchan.fra.go.jp/resource_trends_report_2016/201613.pdf

(太平洋中部海域のヒラメの報告は4～9ページです)

【漁業】

- 1 刺し網、定置網、小型底曳き網、釣などによって漁獲されます。主体は沿岸の刺網漁業で、周年にわたって漁獲はありますが、11月から4月にかけて多くなります。
- 2 県内の漁獲量は1966年以降、約50～100トンの間を推移していますが、1996～1997年に100トンを超えるピークがあり、2009年にも108トンの漁獲がありました。
- 3 御前崎市や牧之原市沿岸の榛南海域が主要産地で、ピーク時には県内漁獲量の1/3以上を占めていましたが、ここ数年は東駿河湾での漁獲も増えています。



県内のヒラメ漁獲量の推移

【種苗放流】

資源増殖を目的に、漁協や栽培漁業推進協議会などにより、種苗生産施設で育てられた全長約6cmの稚魚が、毎年20～50万尾の規模で放流されています。

【資源管理】

小型魚を保護する目的で、漁業者は全長30cm以下(榛南海域では35cm以下)の個体は水揚げせずに再放流するという自主管理に取り組んでいます。

担当者の一言: 背鰭や臀鰭を動かす屈筋は「ひらめの縁側」と呼ばれ、その食感と旨味のファンが多いようです。

問合せ先

静岡県水産技術研究所普及総括班 054-627-1817